

秋に実り、冬に蓄える…



先日、気象の変化によるものか、近年はアブラゼミが減ってクマゼミが増加していると何かで目にしました。以前はセミ時雨を聞くと“ああ、夏休みがスタートしたなあ”と感じていましたが、今年は例年になく雨天続き・酷暑続きでセミの声すらあまり聞かなかった様な気がします。3連休、少し小高いところに出かけた際、ツクツクホウシが鳴いているのを耳に

しました。まだまだ暑いですが、山のため気温が少し低いからだなあと感じました。セミの季語は一般的には“夏”ですが、“ツクツクホウシ”は秋の季語とされています。暦の上で立秋を過ぎましたが今年はいつまでも涼しくならず、家の周りではツクツクホウシの声もほとんど聞いていません。ご存知の通り、セミは数年を土の中で過ごし、成虫になった後は数週間から1ヶ月程度しか生きられないと言います。大音量のセミ時雨は一生懸命生きていることの証明とも感じられます。

江戸時代末期の思想家・教育者である有名な吉田松陰は「春に種を蒔き、夏に苗を植え、秋に実り、冬に蓄える」と言い、人の命にもその長さにかかわらず、四季があると考えていました。松陰は29歳でなくなりますが自身の晩年も実りを収穫し、蓄えの季節に入っていたと感じていたようです。事実、松下村塾が排出した人材が後に新しい時代を切り開くことになっていきます。(写真は萩市HPより)

さて、2学期が始まって2週間余り。まだまだまだまだ暑いですが、ようやく来週くらいには少しずつ朝晩の風に涼しさを感じるようになるとの予報が出ました。カレンダー上では季節は秋。子どもたちは今、どの学年も熱中症対策としてクーラーの効いた教室やふれあいホールで少しずつ運動会のダンスの練習をしながら、今週からは立ち位置の確認や入退場、移動の練習を運動場で元気に行っています。運動会に向けて精一杯頑張っている姿は“学校のセミ時雨”であると言えるでしょう。

今年4月、新学年となり1人1人が新たな目標を持ち、自分で種を蒔き、苗を植えてきたものがこの2学期にはたくさんの実りとなって収穫できることと思います。数値や結果に限らず、子どもたちが2学期の終業式で“自分は頑張った”と胸を張って言えるよう、担任をはじめ、職員一同、指導や励ましをしていきますので今後も保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

主体的・対話的な学び、

協働的な学び

右の写真は授業中の様子です。子どもたちは教科書・資料集・ネットを使って学習し、それを友だちと話すことで自分の学びを深いものになっています。

